

中期目標の達成状況に関する評価結果

(中期目標期間終了時評価)

福井大学

令和5年3月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

| | |
|-------|---|
| 法人の特徴 | 1 |
|-------|---|

(法人の達成状況報告書から転載)

評価結果

| | |
|------|---|
| 《概要》 | 3 |
|------|---|

| | |
|------|---|
| 《本文》 | 4 |
|------|---|

| | |
|-----------|----|
| 《判定結果一覧表》 | 19 |
|-----------|----|

—《本文》における特記事項の冒頭「○」「●」について—

○：第3期中期目標期間4年目終了時評価において抽出されている特記事項※

●：第3期中期目標期間終了時評価において、4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化として、追加で抽出されている特記事項

※ 新型コロナウイルス感染症下における対応については、4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化の有無にかかわらず、令和2、3年度における取組や実績等を更新している。

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

本学は、最多の原子力発電所、特徴的な技術を持つ企業の集積、子どもの高学力、健康長寿、幸福度日本一などの特性をもつ地域に立脚する唯一の国立大学法人として、地域社会にしっかりと軸足を置きつつ、グローバル化社会で活躍できる高度専門職業人の育成、優れた科学的価値の創出、産業の振興、地域医療の向上等に貢献してきた。

今後も、学長のリーダーシップのもと、地域特性を踏まえて、ひとづくり、ものづくり、ことづくりにおける地域の中核的拠点機能並びに地域医療の拠点機能をさらに発展させ、産学官連携活動を一層強化して、地域の創生と持続的な発展に貢献する。

また、本学の強みである分子イメージング医学、原子力安全、遠赤外領域等の重点研究分野における先進的研究や教師教育研究などを一層推進し、その分野における国際・国内研究拠点の形成・発展を目指す。

1. 本学は、基本的な教育研究組織として、教育学部、医学部・医学系研究科、工学部・工学研究科、国際地域学部・国際地域マネジメント研究科及び連合教職開発研究科から構成される。また、5つの先進教育研究施設等、本学の人材育成・研究・地域及び国際貢献等の推進に寄与する関連施設が設置されている。
2. 本学は、地域の特性及び社会的役割を踏まえ、「知の拠点」並びに「地の拠点」として果たすべき多大な役割を十分認識し、機能強化の方向性に応じた重点配分の枠組みとして重点支援①を選択し、第3期中期目標期間を通じて、優れた高度専門職業人の育成等を通じた地域への貢献、及び強み・特色ある分野で世界ないし全国的な教育研究等を推進することとしている。卒業・修了者の全国大学実就職率ランキング（大学通信調査）では、複数学部を有する卒業生1,000人以上の国立大学法人において14年連続1位を達成している。中でも、約4割の卒業生・修了生は高度専門職業人として福井県内に従事しており、このような地域社会の担い手の育成は、重点支援①を選択した大学として関係者の期待に十分応えるものとなっている。
3. グローバル人材育成推進事業、COC事業、COC+事業（中間及び事後評価ともに「S」評価）等の実績を活かし、地域からの要請に応え、地域創生やグローバル化する社会の発展に寄与できる人材を育成することを目的に、平成28年度に国際地域学部を新たに設置し、令和2年度には専門職大学院として国際地域マネジメント研究科を開設した。これは、地域社会にしっかりと軸足を置きつつ、グローバル化社会で活躍できる高度専門職業人の育成に資するものであり、重点支援①を選択した大学としての貢献を更に拡大するものである。併せて、「地域の地（知）の拠点」作りを進め、COC+事業の責任大学として県内他4大学との協働体制を整備し、次いで令和元年度には県内8高等教育機関全てと福井県が参加する「ふくいアカデミックアライアンス」へと移行させ、さらに令和3年度には“地域連携プラットフォーム”に相当する「未来協働プラットフォームふくい」の発足へと、その中核大学として地（知）の拠点機能を全県的な体制へと大きく発展させている。
4. 本邦の教師教育改革を先導する本学は、その機能強化や国内外ネットワーク形成を更に促進するため、本学が基幹校となり県境を越えた広域にわたる全国初の連合教職開発研究科を平成30年度に設置した。さらに、生涯にわたって職能成長をし続ける卓越した高度専門職業人の育成、超スマート社会が求める教師教育の実現などを目指し、令和3年度に「総合教職開発本部」を設置した。このような成果も一助となり、令和4年3月に本学は「教員養成フラッグシップ大学」に指定された。

[個性の伸長に向けた取組(★)]

重点支援①を選択した大学として、地域特性や強みを活かし、次の3つを主な取組として、本学の個性のさらなる伸長を図った。

- 教育の国際化等を通じて、地域が求めるグローバル化社会で活躍できる高度専門職業人の育成を進める。(関連する中期計画 1-1-1-1, 1-1-1-4, 1-3-1-1, 4-1-1-2, 4-1-2-1)
- 特色と強み、地域特性を踏まえた重点研究分野における「知」の創出を通して、研究拠点形成を進める。(関連する中期計画 2-1-1-1, 2-1-1-2, 2-1-1-3)
- 地域の知の拠点として、地域社会との連携のもと、地域の持続的な発展に貢献する。(関連する中期計画 2-1-3-1, 3-1-1-1, 3-1-1-3, 3-1-2-1)

[戦略性が高く意欲的な目標・計画(◆)]

- 教員養成に係る学部・研究科・附属学園による三位一体改革事業を推進させ、附属学校の教育研究機能の転換、管理職養成教育の実施、国内外の教師教育ネットワークの拡大など、教育制度改革を見据えた先進的な教師教育を推進する。あわせて、高エネルギー医学研究センターや子どもこころの発達研究センターとの組織横断的な教育研究体制を確立し、充実した医教連携を実現することで、発達障害等に対応できる教員養成の充実を図る。(関連する中期計画 1-1-1-4, 1-1-1-5, 2-1-1-1, 2-1-1-4, 3-1-2-1)
- 国際地域学部を中心に、地域の創生を担い、グローバル化する社会の発展に寄与できる人材を育成するため、地域の特性やこれまでの実績を踏まえ、地域の企業・自治体等と連携した探求型能動的学習や、本学学生の海外派遣及び外国人留学生の受け入れを一層充実させ、学生の主体的な学びと国際水準での教育を実現する。そのためにも、国際的に通用する教務システムの構築や教育課程の改革に取り組む。特に国際地域学部は、これらの取組を学内で先導的に実施し、その成果の検証を通して全学的な教育改革に繋げる牽引役となる。(関連する中期計画 1-1-1-6, 1-2-1-3, 3-1-2-4, 4-1-1-2)
- 原子力発電所や原子力研究機関が集積する福井県ならではの環境を活かし、北陸・関西・中京圏の大学等とも連携して、より安全な原子力システム、原子力防災、廃止措置及び廃棄物減容などに関する先進的原子力研究と総合的原子力人材育成の機能強化を図るとともに、アジアとの原子力防災研究協力や欧米との廃止措置研究協力などを通じ、地域からグローバルまでをカバーする拠点の整備を行う。(関連する中期計画 2-1-1-3, 4-1-1-4)
- 少子化・超高齢化・人口減少が進行する地域社会にも適合する先端的 ICT などを用いた地域医療システムを構築するとともに、地域の最後の砦である医学部・附属病院による高度医療の先進的研究や新技術開発・応用の推進などを統合した、重層的で、全国的に見ても稀有な、これまでの先導的な実績を基盤とした本邦における新しい地域医療セーフティネット(福井型地域医療モデル)を構築する。(関連する中期計画 2-1-2-1, 3-1-2-2)

評価結果

《概要》

第3期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、福井大学の中期目標（大項目、中項目及び小項目）の達成状況の概要は、以下のとおりである。

＜判定結果の概要＞

| 中期目標（大項目） | 判定 | 中期目標（小項目）判定の分布 | | | | |
|--|-------------------------|--------------------------|------------------------|-------------------|--------------------------------|--------------------|
| | | 【5】 特筆すべき実績を 上げている | 【4】 優れた実績を上げ ている | 【3】 達成して いる | 【2】 十分に達 成しているとはい えない | 【1】 達成して いない |
| I 教育に関する目標 | 【4】 上回る成果が 得られている | | | | | |
| 1 教育内容及び教育の成果等に関する目標 | 【4】 上回る成果が 得られている | | 1 | | | |
| 2 教育の実施体制等に関する目標 | 【3】 達成している | | | 1 | | |
| 3 学生への支援に関する目標 | 【4】 上回る成果が 得られている | | 1 | | | |
| 4 入学者選抜に関する目標 | 【3】 達成している | | | 1 | | |
| II 研究に関する目標 | 【3】 達成している | | | | | |
| 1 研究水準及び研究の成果等に関する目標 | 【4】 上回る成果が 得られている | | 2 | 1 | | |
| 2 研究実施体制等に関する目標 | 【3】 達成している | | | 2 | | |
| III 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標 | 【4】 上回る成果が 得られている | | | | | |
| | なし | | 1 | 1 | | |
| IV その他の目標 | 【3】 達成している | | | | | |
| 1 グローバル化に関する目標 | 【3】 達成している | | | 2 | | |

※ 大項目「I 教育に関する目標」及び「II 研究に関する目標」においては、4年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を反映している。

《本文》

I 教育に関する目標（大項目1）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

（判断理由）「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4項目のうち、2項目が「中期目標を上回る成果が得られている」、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1）教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目1-1）

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

（判断理由）「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

| 小項目 1-1-1 | 判定 | | 判断理由 |
|---|--|----------------------|---|
| 地域に根ざす国立大学として、グローバル化社会における地域創生を担う人材の中核的育成拠点となり、高い国際通用性を有する教育課程のもと、地域一体型教育を推進し、ミッションの再定義で掲げた各分野の人材を含め、優れた高度専門職業人を育成する。 | 【4】 | 中期目標を達成し、優れた実績を上げている | <ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「高度専門職業人の育成に向けた教育課程の整備」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。 |
| | 《特記事項》 | | |
| | （優れた点） ○ 高度専門職業人の育成に向けた教育課程の整備 国際アドバイザーの外部評価等により体系性及び国際通用性を担保している教育課程の下、高い学修成果を身につけた | | |

| |
|---|
| <p>卒業生・修了生の輩出、並びに、平成 28 年度に国際地域学部、平成 30 年度に福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科、令和 2 年度に国際地域マネジメント研究科（専門職大学院）の新設など、学士・大学院課程の改組再編が進んでいる。学修効果は学生を対象としたアンケートや評価テスト、就職先や卒業生へのアンケートにより、第 2 期中期目標期間を上回る水準、伸び率を確認している。就職率は第 2 期中期目標期間を 1.5 ポイント上回った 97.5%となっている。（中期計画 1-1-1-1、1-1-1-7）</p> <p>○ アクティブ・ラーニングの推進</p> <p>アクティブ・ラーニング（AL）を取入れた科目の割合が令和元年度に約 71%に達し、第 3 期中期目標期間の目標値 60%を既に超えるなど、高い学習効果が期待できる方策の導入が進んでいる。AL 導入は順調に進み、医学部では臨床教育支援 ICT システム（CESS）を開発・運用し、導入の学習効果について調査・検証している。なお、CESS は文部科学省主催のワークショップにおいて参加 77 大学中 1 位の評価を得ている。（中期計画 1-1-1-2）</p> <p>（特色ある点）</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症下の教育</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策として、通信環境がない県外学生へのウェブカメラ付パソコンの貸与、近郊の学生には学内の情報機器や設備を利用した受講を認める措置を講じ、混乱もなく遠隔授業を開始している。医学部では、G Suite for Education を使いやすくカスタマイズした遠隔授業支援システム F.MOCE（Fukui-Medical Online Communication & Education System）を企業と共同して開発し、教育効果や満足度の高い授業方法への改善を図っている。また、学生からの意見聴取も行っている。</p> |
|---|

(2) 教育の実施体制等に関する目標 (中項目 1-2)

| |
|--|
| <p>【評価結果】 中期目標を達成している</p> <p>(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。</p> |
|--|

| 小項目 1-2-1 | 判定 | | 判断理由 |
|--|-----|--|---|
| <p>グローバル高度専門職業人および地域活性化の中核となる人材の育成拠点として、教育の国際通用性の確保・向上や地域一体型教育の先導的推進に係る取組みなど、質の高い教育を実現するための教育実施体制を整備し運用する。</p> | 【3】 | 中期目標を達成している | <ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 |
| | | <p>《特記事項》</p> <p>(優れた点)</p> <p>○ キャリア教育の高評価 キャリアセンターを設置し、職業観等を育成する共通教育科目の開講等、就職指導にとどまらないキャリア教育を組織的に実施し、高い就職率に繋がっている。卒業生・修了生を採用した企業等を対象としたアンケートの結果、全ての項目で福井大学卒業生・修了生に対する評価が新卒採用者全体に対する評価を上回り、かつ上回り方は第2期中期目標期間から更に拡大するなどの評価を得ている。また、ほとんどの調査項目において、平成25年度、平成28年度、令和元年度の順に評価が向上している。(中期計画 1-2-1-2)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 地域一体型教育実施体制の整備 国際地域学部では地域の企業、自治体、団体等の関係者が参加する地域連携協議会を平成28年度に設置し、地域一体型教育のモデルであるPBLへの関与、アドバイザーボードとして教育研究や学部運営に活用している。また、連携機関数は当初目標の30機関を越え、令和元年度末までに91機関に達している。(中期計画 1-2-1-3)</p> | |

(3) 学生への支援に関する目標 (中項目 1-3)

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(判断理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

| 小項目 1-3-1 | 判定 | | 判断理由 |
|--|------------|-----------------------------|--|
| <p>学生と教職員の良好な関係のもと、ステークホルダーの満足度が高い修学支援、生活支援、留学支援等とともに、高い実績を持つ就職支援を推進する。</p> | <p>【4】</p> | <p>中期目標を達成し、優れた実績を上げている</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 ・ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「顕著な就職率と定着率」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。 |
| <p>《特記事項》</p> | | | |
| <p>(優れた点)</p> <p>○ 顕著な就職率と定着率 学生の採用後の離職率は全国平均の3分の1以下 (全国平均 32.0% に対し 9.9%) と非常に低く、高い就職率と定着率となっている。なお、卒業・修了者の全国大学実就職率ランキングでは、複数学部を有する卒業生 1,000 人以上の国立大学において 12 年連続第 1 位を達成している。(中期計画 1-3-1-1)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 就職支援の高評価 企業の人事担当者に対する民間の調査 (企業の人事担当者から見た大学イメージ調査 2019) の結果、就職支援に熱心に取り組んでいる大学として複数学部を有する国立大学の中で 1 位 (私立大学まで含めた全大学中では 7 位) となり、学生及び卒業生・修了生を採用した企業等からの評価と同様に、充実した就職支援が高い評価を得ている。(中期計画 1-3-1-1)</p> | | | |

| | |
|--|--|
| | <p>○ 留学生用住居の拡充</p> <p>日本人学生との混住宿舎である福井大学国際交流学生宿舎の留学生枠を計画的に拡大するとともに、福井県から一部財政支援を受け、平成30年度に文京キャンパス内に外国人留学生専用の牧島ハウスを設置している。留学生用住居は第3期中期目標期間中に33室増加し、第2期中期目標期間に比べ1.4倍に拡大している。(中期計画1-3-1-2)</p> <p>● 新型コロナウイルス感染症下における経済支援</p> <p>新型コロナウイルス感染症下で経済的に困窮した学生を支援するため、福井大学基金(羽ばたけ基金)や福井県のふるさと納税等を活用した、給付型の奨学金「福井大学基金修学等奨学金」を創設している。この奨学金は収入減の状況に応じて1か月分ごとに申請を受け付けることとし、困窮度に応じた額を継続的に支給するもので、当初(令和2年4月分)から支給を継続している。これまでに延べ1,471名の学生に対して総額3,651万円を支給しており、学生から好評を得ている。これに加え、「緊急学生修学支援給付型奨学金」を、福井大学基金を原資として令和3年3月に新たに創設し、月額奨学金(月額5万円、支援限度額30万円)又は授業料相当額奨学金(最大26.7万円、1回限り)を支給することとしている。さらに、コロナ禍の経済的な困窮から問題となっている「生理の貧困」を懸念した卒業生からの寄附の申出が契機となり、令和3年4月から基金も活用する継続的な生理用品配付支援を実施している。</p> |
|--|--|

(4) 入学者選抜に関する目標 (中項目 1-4)

| |
|---|
| <p>【評価結果】 中期目標を達成している</p> <p>(判断理由) 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。</p> |
|---|

| 小項目 1-4-1 | 判定 | | 判断理由 |
|---|---------------|-------------|---|
| <p>多様な志願者や社会ニーズ等に適切に対応するとともに、新たな高大接続入試の創出に繋がる高大連携等を推進し、知識・能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する選抜方法により、多様な学生の受入れを進める。</p> | 【3】 | 中期目標を達成している | <ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 |
| | <p>《特記事項》</p> | | |
| | <p>該当なし</p> | | |

Ⅱ 研究に関する目標（大項目2）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

（判断理由）「研究に関する目標」に係る中期目標（中項目）2項目のうち、1項目が「中期目標を上回る成果が得られている」、1項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（研究）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1）研究水準及び研究の成果等に関する目標（中項目2-1）

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

（判断理由）「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）3項目のうち、2項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、1項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

| 小項目 2-1-1 | 判定 | | 判断理由 |
|--|--|----------------------|--|
| 国際・国内研究拠点の形成を目指し、先端的画像医学研究、遠赤外領域開発・応用研究、原子力安全・危機管理研究、教師教育研究などを学内横断的かつ重点的に推進する。 | 【4】 | 中期目標を達成し、優れた実績を上げている | <ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「先進ジャイロトロンの開発」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。 |
| | <<特記事項>> （優れた点） ○ 先進ジャイロトロンの開発 高調波発振及びその安定化、より広い周波数帯での発振等の機能を有する先進ジャイロトロンを開発している。開発したジャイロトロンをはじめとする光源を利用して、電磁波照射による癌成長の抑制、サゴ廃棄物灰の電磁波焼結による新規材料作製をはじめ、医療、材料、物性、生体科学、通信等 | | |

| | | | |
|---|--|--------------------|--|
| | <p>の幅広い分野において新たな知見を獲得している。なお、先進ジャイロトロンの一連の研究等により複数の賞を受けている。(中期計画 2-1-1-2)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 先端的画像医学研究の推進 新たにラジオミクス解析等の新しい画像解析法を応用するなど、がん分子イメージングでは最先端の画像研究成果を上げ、特に子宮体がん治療評価法の開発では画像による腫瘍表現型の評価、術前リスク分類、長期予後の予測を可能にしている。また、成長発達過程並びに発達障害児者の脳画像研究について成果を上げている。(中期計画 2-1-1-1)</p> <p>○ PET/MRI 研究における先導的研究の推進 がんや認知症研究においては、従来からの分子イメージングに加えて、MRI による各種機能画像を同時に収集するマルチモダリティイメージング解析で病態診断の新たな可能性を導き出すことに成功し、多施設共同臨床研究を新たに始動するなど、PET/MRI 研究では先導的研究拠点の役割を務めている。(中期計画 2-1-1-1)</p> <p>○ 原子力安全・危機管理研究の推進 高速炉での格納容器破損防止対策の有効性評価技術の開拓、超高温熱物性測定装置の開発、原子力発電所等における停止時未臨界監視手法の開発等を行っている。その成果により、事業事後評価総合所見では A 判定、また関連研究で日本原子力学会材料部会功績賞を受賞している。また、原子力に関する研究では、複数の原子力システム研究開発事業等に取り組み、いずれも着実に実施していることが評価されている。(中期計画 2-1-1-3)</p> | | |
| <p>小項目 2-1-2</p> | <p>判定</p> | | <p>判断理由</p> |
| <p>科学技術の発展に寄与する学術研究や地域・社会へ貢献する実践的な研究を推進する。</p> | <p>【3】</p> | <p>中期目標を達成している</p> | <p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p> |
| <p>《特記事項》</p> | | | |
| <p>(優れた点)</p> <p>○ 独自の人工生体膜実験法による成果 独自の人工生体膜実験法により、生体膜張力がカリウムチャンネル開閉挙動に影響することを明らかにするとともにカリ</p> | | | |

| | | |
|---|---|---|
| | <p>ウムチャネルのイオン透過を分子動力学シミュレーションにより再現し、結晶構造からの類推による従来の仮説を塗り替える新たな機構を提案している。この成果は米国科学アカデミー紀要に掲載されている。また、平成28年度福井県科学学術大賞を受賞している。(中期計画2-1-2-1)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症に係る研究</p> <p>新型コロナウイルスに関連する研究として、コロナウイルスの受容体となるたんぱく質を抑制する作用があることを確認し、企業との共同開発により鼻うがい薬を開発、子どものこころの発達研究センターによる育児ストレスとの関連の調査、高解像度肺CTスキャンによるCOVID肺炎の特徴の把握等、これまでに培ってきた成果を応用し研究を行っている。</p> | |
| <p>小項目 2-1-3</p> | <p>判定</p> | |
| <p>社会のニーズを踏まえ、本学の特色を生かした研究成果を社会に還元する。</p> | <p>【4】</p> | <p>中期目標を達成し、優れた実績を上げている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 ・ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「共同研究の拡大や特許活用の向上」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。 |
| <p>《特記事項》</p> | | |
| <p>(優れた点)</p> <p>● 共同研究の拡大や特許活用の向上</p> <p>令和元年度まで共同研究件数が前期と比較して年率10%程度増加しているほか、特許の実施許諾1件当たりの金額も前期と比較して約3倍に増加していた。令和2年度及び令和3年度では、産学官金民の柔軟な枠組みの構築の取組をさらに進め、福井県の地場産業である繊維産業や眼鏡産業等の地域企業と協働して、超臨界二酸化炭素を利用した新規染色技術やスマートグラス用新規光学デバイス等を開発している。さらに、戦略的な技術移転契約スキームの確立、地域課題への戦略的な対応、保有知財に係る経営判断、社会実装可能なテーマに係る特許群としての実施許諾などを進めている。こ</p> | | |

| | |
|--|---|
| | <p>のように研究開発及び知財戦略を併せ進めた結果、令和3年度の特許実施許諾率は目標値（前期と比較して1倍超）を上回る2.35倍、特許の実施許諾1件当たりの金額は目標値（同1倍超）を大きく上回る基準値の5.08倍にまで増加している。また、令和3年度の県内企業との共同研究割合も目標値（同1倍超）を上回る1.4倍となっている。（中期計画2-1-3-1）</p> <p>（特色ある点）</p> <ul style="list-style-type: none">○ 産学官金連携体制への貢献 オープンイノベーション推進機構（FOIP）への参画を通して、持続的かつ質の高い産学官金連携活動を主導し、FOIPのイノベーションネットアワード2019の全国イノベーション推進機関ネットワーク会長賞獲得に大いに貢献している。（中期計画2-1-3-1）○ 社会的要請に応じた研究開発の推進 投資・回収を意識した会社様組織を地域産学官金が共同して構成し、文部科学省の地域イノベーション・エコシステム形成プログラム等の採択を得て、社会ニーズと連動した研究開発を推進し、大学発ベンチャーを設立するなどの社会実装まで実践している。（中期計画2-1-3-1） |
|--|---|

(2) 研究実施体制等に関する目標 (中項目 2-2)

【評価結果】 中期目標を達成している
 (判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

| 小項目 2-2-1 | 判定 | | 判断理由 |
|---|-----|-------------|---|
| 研究活動の高度化および効率化のために、研究の体制および環境を整備する。 | 【3】 | 中期目標を達成している | ・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 |
| ≪特記事項≫ (特色ある点) ○ T-URA を活用した研究支援体制の高度化 T-URA (TはTechnology、Training 及びTransfer) を配置して、研究成果の社会実装を伴走支援して得たリソースを活用し、知的創造サイクルを回す仕組 (機器分析の現場から産学官の情報集積を行うことで、成果となる社会実装を念頭においた研究課題創造が可能となる仕組) を構築している。 (中期計画 2-2-1-2) | | | |
| 小項目 2-2-2 | 判定 | | 判断理由 |
| 研究水準の向上を図るため、適切な評価を実施する。 | 【3】 | 中期目標を達成している | ・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 |
| ≪特記事項≫ 該当なし | | | |

Ⅲ 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標(大項目3)

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目) 2項目のうち、1項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、1項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

| 小項目 3-1-1 | 判定 | | 判断理由 |
|--|--|----------------------|--|
| 地域の知の拠点として地域社会との連携を強化し、地域社会を志向した教育・研究を推進し、地域の人材養成と課題解決に寄与する。 | 【4】 | 中期目標を達成し、優れた実績を上げている | <ul style="list-style-type: none"> ・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 ・ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「まちづくりに関する研究の推進」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。 |
| | <<特記事項>> (優れた点) ○ まちづくりに関する研究の推進 COC+事業に係るまちづくり分野に関する連携研究は、福井駅・城址周辺地区まちづくりガイドライン等への活用、社会福祉協議会と連携した異世代ホームシェア事業「たすかりす」の運営など社会実装されている。また、平成29年度日本建築学会賞、平成29年度ふるさとづくり大賞(総務大臣賞)、平成30年度環境的に持続可能な交通(EST)交通環境大賞(環境大臣賞)を受賞している。(中期計画3-1-1-3) | | |
| | (特色ある点) ○ 全県的な地域貢献推進体制の構築 COC事業を基盤に地域の地(知)の拠点作りを進め、次いでCOC+事業の責任大学として県内他4大学との協働体制を整備し、令和元年には県内8高等教育機関全てと福井県が参加するふくいアカデミックアライアンスへと移行させ、地域 | | |

| | <p>貢献推進体制を学内及び全県的に整備している。(中期計画 3-1-1-1)</p> <p>○ 地域に貢献する人材育成</p> <p>地域貢献に資する人材をふくい地域創生士として認定する制度(平成 29 年度開始)、更にその中で顕著な地域貢献活動を行った者をふくい地域創生アワード(平成 30 年度開始)として表彰する制度は、外部評価委員から「地域の持続的発展に貢献する人材の育成を目指すオリジナルな取組で、効果が期待される」と評価されている。(中期計画 3-1-1-2)</p> | |
|---|---|---|
| 小項目 3-1-2 | 判定 判断理由 | |
| <p>地域の教育研究拠点としての機能を強化するため、教育・医療・産業界等との協力関係を戦略的に強化し、地域の教育力向上、健康を守る地域医療の向上並びに産業の発展に繋がるイノベーション創出を積極的に推進し、地域・社会の持続的発展に貢献する。</p> | <p>【3】</p> | <p>中期目標を達成している</p> <p>・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。</p> |
| <p>《特記事項》</p> | | |
| <p>(優れた点)</p> <p>○ クラウド型地域医療連携システムの構築</p> <p>救急隊と医療機関の連携、効率的な広域救急医療システム構築のための ICT ネットワークを用いたクラウド型救急医療連携システムは、石川県・京都府を含む 9 消防本部、14 医療機関で実際に運用されている。なお、一連の研究はモバイルコンピューティング推進コンソーシアム(MCPC) 2016 の総務大臣賞及びグランプリ賞、総務省 ICT 地域活性化大賞 2017 の優秀賞を受賞している。(中期計画 3-1-2-2)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 先導的教師教育モデルの構築</p> <p>平成 29 年度に、教職大学院が行ってきた教員免許状更新講習と福井県教育委員会が行ってきた中堅教諭資質向上研修を融合させ、全国に先駆けて県教育委員会との共同開催を実現し、更新講習受講対象者の受講率が 100%を達成するなど、教員研修の効率化・働き方改革・地域の教育力向上に貢献するとともに、教員の資質向上を推進する先導的教師教育モデルとなっている。(中期計画 3-1-2-1)</p> | | |

IV その他の目標（大項目 4）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

（判断理由）「その他の目標」に係る中期目標（中項目）が1項目であり、当該中項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1）グローバル化に関する目標（中項目 4-1）

【評価結果】 中期目標を達成している

（判断理由）「グローバル化に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

| 小項目 4-1-1 | 判定 | | 判断理由 |
|---|---|-------------|---|
| 国際通用性の高い世界に開かれた大学に改革し、世界で活躍できる高度専門職業人を育成する。 | 【3】 | 中期目標を達成している | ・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 |
| | <<特記事項>> （特色ある点） ○ グローバル化活動数の活用 教員の国際活動の活性化にも繋がる国際活動の活性化等の指標となるグローバル化活動数（サバティカル制度等を活用した海外機関での研究活動、海外機関へのベンチマーキング視察、国際会議での発表など）を新たに設置して、全教員のグローバル活動数は第3期中期目標期間の目標値（第2期中期目標期間の20%増）を既に達成し、第2期中期目標期間に比べ教員の国際活動が活性化している。（中期計画 4-1-1-3） | | |

| 小項目 4-1-2 | 判定 | | 判断理由 |
|--------------------------|--|-------------|---|
| 地域のグローバル化を牽引する核となる大学になる。 | 【3】 | 中期目標を達成している | <ul style="list-style-type: none"> 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。 |
| | 《特記事項》 | | |
| | <p>(特色ある点)</p> <p>○ 連合教職大学院による日本型教育の海外展開 連合教職大学院はエジプト・日本教育パートナーシップ(EJEP)人材育成事業への参画等を通じて、日本型教育をアジア・アフリカ諸国に浸透・普及させ、日本型教育の国際展開に貢献している。これらの取組によって海外現職教員研修の受講者数は増加している。EJEPでは、平成31年1月から令和3年度までの4年間に約680名の教員を研修員として受入れる予定であり、受入れ実績はすでに延べ101名となっている。(中期計画 4-1-2-1)</p> | | |

《判定結果一覧表》

| 中期目標(大項目) | 判定 | 下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※ | (参考) 4年目終了時評価の判定 |
|--|-----|------------------------------|---------------------|
| 中期目標(中項目) | | | |
| 中期目標(小項目) | | | |
| 中期計画 | | | |
| 大項目1 教育に関する目標 | 【4】 | 3.87 うち現況分析結果加算点 0.37 | 【4】 |
| 中項目1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標 | 【4】 | 4.00 | 【4】 |
| 小項目1-1-1 地域に根ざす国立大学として、グローバル化社会における地域創生を担う人材の中核的育成拠点となり、高い国際通用性を有する教育課程のもと、地域一体型教育を推進し、ミッションの再定義で掲げた各分野の人材を含め、優れた高度専門職業人を育成する。 | 【4】 | 2.71 | 【4】 |
| 中期計画1-1-1-1(★) グローバル化社会において求められる高度専門職業人等の人材の育成が学位プログラムとして担保されるよう、体系的で国際通用性を有する教育課程や個々の科目の目標等を平成30年度までに整備し、周知・運用する。その一環として、一体的に策定したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーについて、整合性などを継続的に見直し、必要に応じて適切な改正を行う。さらに、教育の国際通用性を検証するため、全学的な教学マネジメントのもと、教育成果の検証を含めた内部質保証、国際アドバイザーによる外部評価等を実施する。大学院課程では、第3期中期目標期間中に、教育学研究科および工学研究科において、機能強化のための改組と質の高い学位プログラム構築を行う。 | 【3】 | 優れた実績を上げている | 【3】 |
| 中期計画1-1-1-2 高度専門職業人として必要な知識・技能および課題探求能力などをより確実に修得させるため、教育方法が教育課程・科目の性質や目標に照らして十分な学習効果をもたらすものであるか随時検証し、より高い学習効果が期待できる方策を積極的に策定・導入する。特に、能動的学習(アクティブ・ラーニング)を取り入れた科目の割合を第3期中期目標期間中に6割以上にする。また、教員養成においては、プロジェクト型授業を発展させることなどを通して、学校現場においてアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開できる能力を育成する。 | 【3】 | 優れた実績を上げている | 【3】 |
| 中期計画1-1-1-3 学生の主体的な学びの確立に向け、修学環境を維持・向上させるとともに、学習管理システムやシラバスの活用、教員による指導の徹底等によって自主的学習活動を一層促し、第3期中期目標期間中に、学生の授業外学修時間を、現状の1.5倍以上に向上させる。また、学士課程では米国型Grade Point Average(GPA)制度(平成29年度までに導入)とともに、多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン(アセスメント・ポリシー)を整備し、国際通用性のある厳格な成績評価を行う。 | 【3】 | 優れた実績を上げている | 【3】 |
| 中期計画1-1-1-4(★)(◆) 教員養成に係る学部、教職大学院と附属学園の三位一体改革事業のもと構築した体制を有効に機能させ、附属学園の教員研修学校化促進、学校拠点方式を基軸とする管理職養成教育の実施、教職大学院の取組を複数大学間で連携・協力できる組織の発展的整備や国内外のネットワークの拡大など、教育制度改革を見据えた先進的な教員養成・教師教育を一層推進するモデルを示す。 | 【3】 | 優れた実績を上げている | 【3】 |
| 中期計画1-1-1-5(◆) 子どものこころの発達研究センターと教職大学院および教育学部は、子どものこころの発達に関する医教連携の教育研究体制を構築し、本学で蓄積中の先端的脳科学・精神医学および先駆的教師教育研究の知見を活かし、発達障害についての教員養成カリキュラムの改善や、附属学園における医教協働による子ども支援体制の整備、いじめ対策等生徒指導推進事業の推進、インクルーシブ教育の向上を図るための養護教諭研修システムの先進的モデル提示を行う。 | 【2】 | 実施している | 【2】 |
| 中期計画1-1-1-6(◆) 国際地域学部を中心に、地域の創生を担い、グローバル化する社会の発展に寄与できる人材を育成するため、これまでの「スーパーグローバル大学等事業経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」、「地(知)の拠点整備事業」での実績を活かし、地域の企業や自治体の協力を得て行う課題探求プロジェクトを中心とした探求型能動的学修や、海外留学とそれに向け徹底的に英語を学ぶ教育課程を編成し、国際水準での教育を実施する。さらに、その成果を検証しつつ、他部局へ随時適用する。 | 【2】 | 実施している | 【2】 |

福井大学

| 中期目標(大項目) | 判定 | 下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※ | (参考) 4年目終了時評価の判定 | |
|---|-----|------------------------------|---------------------|-----|
| 中期目標(中項目) | | | | |
| 中期目標(小項目) | | | | |
| 中期計画 | | | | |
| 中期計画1-1-1-7 教師、医療人、技術者等の社会人の学び直しを支援するため、学びやすい教育システム等を整備し、第2期中期目標期間末と比較して、社会人の学びに対応したプログラムの科目数や受講者数などを増加させる。 | 【3】 | 優れた実績を上げている | 【3】 | |
| 中項目1-2 教育の実施体制等に関する目標 | 【3】 | 達成している | 3.00 | 【3】 |
| 小項目1-2-1 グローバル高度専門職業人および地域活性化の中核となる人材の育成拠点として、教育の国際通用性の確保・向上や地域一体型教育の先導的推進に係る取組みなど、質の高い教育を実現するための教育実施体制を整備し運用する。 | 【3】 | 達成している | 2.33 | 【3】 |
| 中期計画1-2-1-1 質の高い教育を実現するため、平成28年度に再編する教員組織・教育組織分離体制を有効に活用し、全学教育改革推進機構に設けたカリキュラム・授業評価委員会を中心として、カリキュラム・マネジメントを行う。さらに、Institutional Research(IR)機能の活用を含め、教育の質保証システムを整備・運用するとともに、国際アドバイザー等による本学の教育全般の「国際的な水準」の検証を行い、教育の国際通用性や学位の質を保証する。 | 【2】 | 実施している | | 【2】 |
| 中期計画1-2-1-2 学生の社会的・職業的自立に向けた教育実施体制整備の一環として、自治体、企業、教育・医療機関等と交流・連携を深め、インターンシップ等に関わる学内組織の整理統合を行うとともに、インターンシップ等も含めた実践的なキャリア教育を行う取組みを一層推進することにより、学外関係者からの「本学卒業(修了)生に対する高い評価」を維持する。このため、学生の就職先関係者や本学既卒者への意見聴取の継続的実施等によって組織的に検証を行う。 | 【3】 | 優れた実績を上げている | | 【3】 |
| 中期計画1-2-1-3(◆) 大学のグローバル化を促進させる教育実施体制整備の一環として、シラバスや履修単位数制限(CAP制)の見直し、ナンバリングや柔軟な学事暦の導入等によって、国際的に通用する教務システムを整備する。特に国際地域学部はこれらの取組みを先導して実施し、その成果を検証しつつ、他部局へ随時適用する。 | 【2】 | 実施している | | 【2】 |
| 中項目1-3 学生への支援に関する目標 | 【4】 | 上回る成果が得られている | 4.00 | 【4】 |
| 小項目1-3-1 学生と教職員の良好な関係のもと、ステークホルダーの満足度が高い修学支援、生活支援、留学支援等とともに、高い実績を持つ就職支援を推進する。 | 【4】 | 優れた実績を上げている | 2.50 | 【4】 |
| 中期計画1-3-1-1(★) 組織的な連携体制のもと、修学面、生活面、就職面などの総合的できめ細かい学生支援体制を整備・運用し、ステークホルダーの高い満足度を維持する。このため、学生等への意見聴取の継続的実施等によって組織的に検証を行う。特に、就職先から高く評価されている就職支援体制を基盤として、積極的な進路相談や就職支援を一層推進し、概ね96%前後の高い就職率を維持する。 | 【3】 | 優れた実績を上げている | | 【3】 |
| 中期計画1-3-1-2 在学生の留学や外国人留学生の受入れを積極的に進めるために、留学の情報提供、修学・生活・就職にわたる総合的できめ細かい支援を行う。そのために、留学関係事務の改善や留学生受入れの入試改革などを行うとともに、留学生用住居を拡大する。 | 【2】 | 実施している | | 【2】 |

| 中期目標(大項目) | 判定 | 下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※ | (参考) 4年目終了時評価の判定 | |
|---|------------|---------------------------|-----------------------------|------------|
| 中期目標(中項目) | | | | |
| 中期目標(小項目) | | | | |
| 中期計画 | | | | |
| 中項目1-4 入学者選抜に関する目標 | 【3】 | 達成している | 3.00 | 【3】 |
| 小項目1-4-1 多様な志願者や社会ニーズ等に適切に対応するとともに、新たな高大接続入試の創出に繋がる高大連携等を推進し、知識・能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する選抜方法により、多様な学生の受入れを進める。 | 【3】 | 達成している | 2.50 | 【3】 |
| 中期計画1-4-1-1 一体的な3ポリシーのもと、達成度テスト(仮称)、国際バカロレア資格等の活用を含め、多様な志願者に対し知識・能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定できる選抜方法を策定し、適宜導入する。さらに、新たな高大連携のあり方およびそこの学習成果に基づく多様な能力を多面的・総合的に評価する手法の研究開発を行うとともに、それを通して高大接続入試、特に個別選抜の改善に資する。国際地域学部では、高大接続AO入試を平成29年度から実施するとともに、他学部での導入を検討する。 | 【3】 | 優れた実績を上げている | | 【3】 |
| 中期計画1-4-1-2 志願者・入学者の状況やアドミッション・ポリシーとの整合性、社会ニーズ等を随時点検し、選抜方法や教育課程の継続的改善を行うとともに、必要に応じて入学定員の見直しを行う。さらに課題解決に主体的・協働的に取り組む高大連携の教育を発展させるとともに、初年次教育を含めた高大接続や積極的な入試広報活動等によって、県内出身者を含め、アドミッション・ポリシーに沿った多様な学生を確保する。 | 【2】 | 実施している | | 【2】 |
| 大項目2 研究に関する目標 | 【3】 | 達成している | 3.48 うち現況分析結果加算点 0.15 | 【3】 |
| 中項目2-1 研究水準及び研究の成果等に関する目標 | 【4】 | 上回る成果が得られている | 3.67 | 【3】 |
| 小項目2-1-1 国際・国内研究拠点の形成を目指し、先端的画像医学研究、遠赤外領域開発・応用研究、原子力安全・危機管理研究、教師教育研究などを学内横断的かつ重点的に推進する。 | 【4】 | 優れた実績を上げている | 2.50 | 【4】 |
| 中期計画2-1-1-1(★)(◆) 本邦初の分子イメージング部門を擁し、世界最先端画像医学研究拠点の一つである高エネルギー医学研究センターを中心に、子どものこころの発達研究センター等も参画し、子どものこころの発達研究、脳科学研究等に関する国際・国内共同研究、医工教連携研究活動を積極的に実施する。これらにより、生体機能画像研究に関する国際シンポジウム等の開催数、国際・国内共同研究の実施件数、学術誌への英語論文掲載数を第2期中期目標期間より20%以上増加させる。 | 【3】 | 優れた実績を上げている | | 【3】 |
| 中期計画2-1-1-2(★) 我が国唯一で世界的にも優れた高出力遠赤外光源ジャイロトロンの研究開発実績を踏まえ、公募型国内共同研究、国際共同研究の実施や国際ワークショップの主催等を通して、新しい学術研究としての遠赤外分光・計測研究、遠赤外領域の先端科学研究および高出力遠赤外技術開発研究を推進し、学術誌への英語論文掲載数を第2期中期目標期間より20%以上増加させる。 | 【3】 | 優れた実績を上げている | | 【3】 |
| 中期計画2-1-1-3(★)(◆) 「安全と共生」を基本として平成21年4月に設置された附属国際原子力工学研究所を中心に、福島第一原子力発電所の事故の教訓を踏まえ、公募型共同研究等の実施、海外研究機関との研究者の相互派遣、国際ワークショップの開催等を通して、軽水炉および高速炉の安全性向上、原子力防災・危機管理、原子力施設の廃止措置、放射性廃棄物の減容および毒性の低減等に関する先進的研究を一層推進し、国際・国内共同研究等の実施件数、国際ワークショップ等の開催数、学術誌への英語論文掲載数を第2期中期目標期間より20%以上増加させる。また、論文の被引用数と研究成果に基づく受賞の実績を増加させる。 | 【2】 | 実施している | | 【2】 |

福井大学

| 中期目標(大項目) | | 判定 | 下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値※ | (参考)4年目終了時評価の判定 | |
|--|--|-----|--------------------------|-----------------|-----|
| 中期目標(中項目) | | | | | |
| 中期目標(小項目) | | | | | |
| 中期計画 | | | | | |
| 中期計画2-1-1-4(◆) 教師の学校内における職能成長を支える制度構築が求められる今日、全国に先駆け学校拠点方式の教職大学院を設置した実績を踏まえ、知識基盤社会において求められる主体的・協働的な学びを中心とする学校を実現する力を持った教師を養成することを目指し、全国に前例のない教職大学院と附属学園を一体化した教員研修制度の開発、管理職育成コースの設置、アクティブ・ラーニングを中核とする授業改善の研究開発を推進して、福井県教育委員会と連携協働した研修制度の構築、連携・拠点校の拡大、国内外の教師教育のためのネットワークの構築を実現する。 | | 【2】 | 実施している | 【2】 | |
| 小項目2-1-2 科学技術の発展に寄与する学術研究や地域・社会へ貢献する実践的な研究を推進する。 | | 【3】 | 達成している | 2.00 | 【3】 |
| 中期計画2-1-2-1(◆) 医学部・同附属病院では、地域の直面する少子高齢化や過疎化に対応するため、がん、発達障害や認知症、アレルギー・免疫疾患等の様々な疾患の克服を目指した先進的研究とともに、新たな医療技術の開発や地域医療の向上を目指した研究を推進し、学術誌への英語論文掲載数や研究成果の具体化件数等を第2期中期目標期間よりも増加させる。特に、がん、脳、アレルギー・免疫の分野では、第2期中期目標期間より20%以上増加させる。 | | 【2】 | 実施している | | 【2】 |
| 中期計画2-1-2-2 前身の福井高等工業学校設置から90年以上の間、工学の幅広い分野で研究を遂行し、地域および我が国の産業力強化に貢献してきた歴史を踏まえ、工学分野の研究を強化し、工学研究科が推奨指定している質の高い学術雑誌への論文掲載数を第2期中期目標期間よりも増加させる。特に、ミッションの再定義で重点化した繊維・機能性材料分野では第2期中期目標期間より20%以上増加させる。この目標を達成するために、メリハリのある予算配分や重点研究グループの選定、学科・専攻の枠を超えた人事の実施、研究動向の迅速な把握、定期的な異分野間の交流支援、共同研究の成果発表への投稿料助成等により、工学分野で優れた学術基盤研究・発展研究の推進、重点分野の育成を行う。 | | 【2】 | 実施している | | 【2】 |
| 小項目2-1-3 社会のニーズを踏まえ、本学の特色を生かした研究成果を社会に還元する。 | | 【4】 | 優れた実績を上げている | 3.00 | 【3】 |
| 中期計画2-1-3-1(★) 福井方式として認知された産業活性化活動を進めてきた産学官連携本部を中心に、民間企業や公的試験・研究機関との共同研究育成、知的財産管理、計測技術の提供等による企業支援を統合的に行うための産学官金民の柔軟な枠組みを構築し、地域・社会の発展に資する産業や豊かなくらしに関わる共同研究およびグローバルに訴求力のある知的財産の継続的創出を推進し、特許活用率および県内企業との共同研究割合を第2期中期目標期間よりも増加させる。 | | 【3】 | 優れた実績を上げている | | 【3】 |
| 中項目2-2 研究実施体制等に関する目標 | | 【3】 | 達成している | 3.00 | 【3】 |
| 小項目2-2-1 研究活動の高度化および効率化のために、研究の体制および環境を整備する。 | | 【3】 | 達成している | 2.00 | 【3】 |
| 中期計画2-2-1-1 国際的な共同研究および研究者交流を推進するとともに、新たな学問領域の創生や社会的な課題解決のために、国、大学、学部などの枠を超えた様々な連携体制を構築し、国際共著論文や国内大学・研究機関共著論文並びに学内学部間での共著論文等の数を第2期中期目標期間よりも増加させる。 | | 【2】 | 実施している | | 【2】 |
| 中期計画2-2-1-2 リサーチ・アドミニストレーター等を活用した研究支援体制の高度化、研究マネジメント機能の強化、学内競争的研究経費の確保と戦略的配分、外部研究資金の獲得等により、研究力を強化し、研究活動を効果的・効率的に推進する。 | | 【2】 | 実施している | | 【2】 |

| 中期目標(大項目) | | 判定 | 下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※ | (参考) 4年目終了時評価の判定 | |
|--|--|-----|------------------------------|---------------------|-----|
| 中期目標(中項目) | | | | | |
| 中期目標(小項目) | | | | | |
| 中期計画 | | | | | |
| 小項目2-2-2 | 研究水準の向上を図るため、適切な評価を実施する。 | 【3】 | 達成している | 2.00 | 【3】 |
| 中期計画2-2-2-1 | IRを用いた意思決定支援機能を整備することにより、研究の質・量に関する多面的な評価システムを全学的に充実・強化して、先端的研究や強みとなる研究分野への財政的・人的支援を行うなど、戦略的な研究資源配分を行う。 | 【2】 | 実施している | | 【2】 |
| 大項目3 | | 【4】 | 上回る成果が得られている | 3.50 | 【4】 |
| 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標 | | | | | |
| | | なし | — | — | なし |
| 小項目3-1-1 | 地域の知の拠点として地域社会との連携を強化し、地域社会を志向した教育・研究を推進し、地域の人材養成と課題解決に寄与する。 | 【4】 | 優れた実績を上げている | 2.67 | 【4】 |
| 中期計画3-1-1-1(★) | 自治体および地域産業界との連携を強化するとともに、県内5大学が連携して地域志向教育と特色人材育成を行い、卒業生の地域定着を推進するために、COC推進機構を中心とする全学的な地域貢献推進体制を平成28年度末までに確立し、ふくいCOC+事業評価委員会などの外部評価委員会とアドバイザーボード等による評価および事業推進委員会による改善を継続的に実行する。 | 【2】 | 実施している | | 【2】 |
| 中期計画3-1-1-2 | 地域志向と主体性の育成を重視した「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」と連動させた全学的な教育カリキュラム改革を継続し、地域志向・実践系科目数を増加させるとともに、地(知)の拠点大学による地方創生推進事業参加大学間の地域志向科目の相互開放と単位認定等を拡充し、社会が求める高度専門職業人の養成と、地域への定着を推進し、地域社会の持続的発展に寄与する。また、グローバルサイエンスキャンパス事業の実施やスーパーサイエンスハイスクール並びにスーパーグローバルハイスクール事業への支援、さらには、公開講座の開催や大学開放講義等への協力を通じて、地域の児童・生徒に先進的教育を提供し、次世代を担う人材創出に繋げるとともに、地域住民との協働的学習・活動を通して、地域を支える人材の創出、キャリアアップ学習および生涯学習に積極的に貢献する。 | 【3】 | 優れた実績を上げている | | 【3】 |
| 中期計画3-1-1-3(★) | 教育、研究、診療活動などの成果を広く発信し社会に還元するとともに、地域のニーズと大学のシーズの効果的なマッチングおよび連携・協働による地域の課題解決に向けた取組みを進める。さらに地域の課題として顕在化した「人材育成」「ものづくり」「持続可能な社会・環境づくり」などの重点分野の教育・研究を進展させるとともに、福井大学と地(知)の拠点大学による地方創生推進事業参加大学が連携しそれぞれの強みを活かした特色人材育成と地域の課題解決を図る取組みを拡充し雇用創出と地域創生に貢献する。 | 【3】 | 優れた実績を上げている | | 【3】 |
| 小項目3-1-2 | 地域の教育研究拠点としての機能を強化するため、教育・医療・産業界等との協力関係を戦略的に強化し、地域の教育力向上、健康を守る地域医療の向上並びに産業の発展に繋がるイノベーション創出を積極的に推進し、地域・社会の持続的発展に貢献する。 | 【3】 | 達成している | 2.25 | 【3】 |
| 中期計画3-1-2-1(★)(◆) | 三位一体改革により、知識基盤社会における先導的な教師教育モデルを提示し、実施中の拠点校方式による教師教育をさらに発展させることと併せ、福井県全8,000人の教員の資質向上など、地域の教育力向上に貢献する。そのため、第3期中期目標期間中に、教員養成系の教員のうち、学校現場で指導経験のある教員を30%以上、実践的活動に関わる教員を60%以上確保し、地域の学校教育における実践的指導力の更なる向上を図る。学校教育課程においては、教員養成機能を重視した組織改革を進め、第3期中期目標期間中も引き続き教員就職率70%以上を維持することで、福井県における義務教育教員の占有率55%以上を目指し、教職大学院の課程においては、現職教員を除く修了生の教員就職率概ね100%を維持する。 | 【2】 | 実施している | | 【2】 |

福井大学

| 中期目標(大項目) | | 判定 | 下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値※ | (参考)4年目終了時評価の判定 | |
|----------------------|---|-----|--------------------------|-----------------|-----|
| 中期目標(中項目) | | | | | |
| 中期目標(小項目) | | | | | |
| 中期計画 | | | | | |
| 中期計画3-1-2-2(◆) | 人口減少、高齢化の進む地域社会における医師・看護師を中心とする多職種連携による医療の教育・実践の推進により、生涯学習に参加する多職種の医療人を増加させ、地域の自治体や住民に関連した取組みを20%増とし、自治体の各種医療審議会などへの教職員の参加実績を引き続き高水準に維持する。さらに、ICTネットワークを用いた地域医療支援のモデルシステムを構築し、その利用を増加させる。加えて関連病院長会議のメンバーである県内基幹病院を中心に地域医療強化のための連携を推進するとともに、地域医療の向上に貢献する。 | 【2】 | 実施している | 【2】 | |
| 中期計画3-1-2-3 | 地域産業戦略と連携した共同研究を「産学官金」連携により推進する体制を平成29年度末までに構築し、研究者情報や研究成果情報を広く社会に発信する。さらに、知財を含む様々な情報を地域でオープンに共有し、多様性を確保して対話を促進することにより、“産”の市場指向力と“学官”の基盤的研究能力、“金”のプロモート能力を融合したニーズ駆動型地域イノベーションを創出、推進する仕組みを構築し、持続的な技術移転や共同研究成果の創出に繋げ、活力ある地域社会の形成に貢献する。 | 【3】 | 優れた実績を上げている | 【3】 | |
| 中期計画3-1-2-4(◆) | 地域経済の停滞やコミュニティの希薄化、また企業や地域社会のグローバル化等から生ずる諸課題に対し、地域の行政や企業等と連携して、その解決の方向性を探り地域創生の展望を示すことのできる総合的・学際的な研究を推進するとともに、地域創生の核となる人材を育成するための重要なカリキュラムとして、地域と連携した課題解決型能動的学習を拡充する。国際地域学部では平成28年度に地域連携協議会を設置しアドバイザーボードとして機能させるとともに、第3期中期目標期間を通じて全学的に自治体や企業、学校、諸団体との教育・研究の連携を推進し、連携授業および共同研究の連携先数を増加させる。 | 【2】 | 実施している | 【2】 | |
| 大項目4 | その他の目標 | 【3】 | 達成している | 3.00 | 【3】 |
| 中項目4-1 | グローバル化に関する目標 | 【3】 | 達成している | 3.00 | 【3】 |
| 小項目4-1-1 | 国際通用性の高い世界に開かれた大学に改革し、世界で活躍できる高度専門職業人を育成する。 | 【3】 | 達成している | 2.25 | 【3】 |
| 中期計画4-1-1-1 | 戦略的な海外協定校の開拓および留学生同窓会組織との連携の拡大を推進し、国際交流ネットワークを積極的に拡大して、海外協定校数を第2期中期目標期間末と比較して20%増加させる。 | 【2】 | 実施している | | 【2】 |
| 中期計画4-1-1-2(★)(◆)(*) | 学生の国際交流を一層盛んにするために、国際地域学部を中心として、外国人留学生受入れおよび日本人学生の海外派遣プログラムの一層の充実、支援体制の整備、ナンバリングなど留学生に役立つ教務体制の構築、ダブル・ディグリー制等を目指したジョイントプログラム制度の構築と拡充、外国語による情報発信の強化を推進し、全学として受入外国人留学生数と海外派遣日本人学生数を、第2期中期目標期間末と比較して、それぞれ15%増加させる。 | 【2】 | 実施している | | 【3】 |
| 中期計画4-1-1-3(*) | 教職員の国際通用性を高めるために、年俸制やクロス・アポイントメント制度などの柔軟な人事制度を活用した教員採用、語学力を重視した職員採用、現職の教職員のグローバル活動の活発化を推進し、教員のグローバル化活動数(サバティカル制度等を活用した海外機関での研究活動、海外機関へのベンチマーキング視察、国際会議での発表など)を第2期中期目標期間末と比較して20%増加させる。 | 【2】 | 実施している | | 【3】 |
| 中期計画4-1-1-4(◆) | 単独の大学では提供困難であった学部から大学院までの一貫した原子力人材育成プログラムを、県内原子力関連機関および中京・関西圏にある大学からの講師派遣などの相互協力により平成31年度までに構築し、さらに大学院では、留学生および外国人研修生にも対応した、英語で提供する原子力人材育成国際プログラムを確立し、本学の重点分野である原子力安全工学分野において、世界で活躍する高度専門職業人を育成する。 | 【3】 | 優れた実績を上げている | | 【3】 |

| 中期目標(大項目) | 判定 | 下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値 ※ | (参考) 4年目終了時評価の判定 |
|--|---------------|---------------------------|------------------|
| 中期目標(中項目) | | | |
| 中期目標(小項目) | | | |
| 中期計画 | | | |
| 小項目4-1-2 地域のグローバル化を牽引する核となる大学になる。 | 【3】 達成している | 2.00 | 【3】 |
| 中期計画4-1-2-1(★)(*) 教育委員会との連携により県内の小中高の一貫した英語教育の改善、スーパーグローバルハイスクール事業への協力・グローバルサイエンスキャンパス事業の実施、留学生の地域交流活動数の増加(第2期中期目標期間末と比較して20%増)、さらに、グローバル化社会における学び直しの場の創出と提供を実施して、地域の学校およびコミュニティのグローバル化に貢献する。 | 【2】 実施している | | 【3】 |
| 中期計画4-1-2-2 海外拠点を持つ地元企業と連携した日本人学生の東南アジア・東アジア諸国へのインターンシップや、外国人留学生と地元企業とを早期にマッチングさせるなど留学生を就職や奨学金の面で支援する人材育成プログラムの構築と実施を推進して、グローバル化の進む地元産業の一層の発展に貢献する。 | 【2】 実施している | | 【2】 |

※ 中期計画に表示されている記号が示す内容は、それぞれ以下のとおり。

- (★):「個性の伸長に向けた取組」に特に関連する中期計画(「法人の特徴」参照)
- (◆):文部科学省国立大学法人評価委員会に承認された「戦略的かつ意欲的な目標・計画」
- (*):新型コロナウイルス感染症による影響を特に考慮して分析・判定した中期計画

※ 「下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値」のうち、大項目「教育」「研究」の数値については、中項目の判定に使用した数値をそのまま大項目ごとに平均して算出し、その上で4年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を行っている。

【教育】 達成状況評価

現況分析:「教育」

$$\left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「教育に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{(I 教育活動の状況)、} \\ \text{(II 教育成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

【研究】 達成状況評価

現況分析:「研究」

$$\left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{大項目「研究に関する目標」} \\ \text{の中項目の平均値} \end{array} \right) + \left\{ \left(\begin{array}{c} \text{当該法人における} \\ \text{(I 研究活動の状況)、} \\ \text{(II 研究成果の状況)} \\ \text{の全判定結果の平均値} \end{array} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

注1 現況分析は4段階判定となっており、【2】判定(相応の質にある)が基準となる判定のため、現況分析の教育または研究の全判定結果の平均値が2を上回る場合は加算、下回る場合は減算となる。

注2 現況分析結果の加算・減算に当たっては、達成状況の評価結果であることを考慮し、係数「0.5」を設定する。
なお、加算・減算後の数値は小数点第3位を切り捨て処理しているため、現況分析結果加算点と教育または研究に関する大項目における判定の平均値の合算値が一致しないことがある。